

修士論文・卒業論文用 L^AT_EX2_ε クラスファイルの使い方

阿萬 裕久

1 はじめに

本クラスファイル (thesis.cls) は, L^AT_EX2_ε で修士論文・卒業論文を作成するための基本設定を提供するものです。最新版は

```
http://www.hpc.cs.ehime-u.ac.jp/~aman/hpc_cvs/cvsweb.cgi/thesis_style/
```

に置いてあります。

2 使い方

使い方は別添の sample.tex をコピーして使ってもらえば分かると思いますので, 通常の L^AT_EX とは異なる特殊な部分のみ説明します。

なお, thesis.cls をカレントディレクトリにコピーしておくことを忘れずに。

2.1 documentclass 宣言

通常とは異なり,

```
\documentclass{thesis}
```

と指定します。文字の大きさ, 用紙のサイズなどの指定は不要です。

なお, デフォルトでの仕様は下表の通り。

文字サイズ	11 ポイント
左余白	40 mm
右余白	20 mm
上余白	25 mm
下余白	35 mm
行送り	1.4 行

2.2 usepackage 宣言

通常, 必要とされることが想定される graphicx.sty, amsmath.sty, amssymb.sty, enumerate.sty は既に読み込んでありますので指定する必要はありません。

その他のスタイルファイルで必要なものがあれば `usepackage` で指定して下さい。なお、`sample.tex` で指定してある “`txfonts`” というのは、英文及び数式のフォントに Times フォントを利用するためのものです。(このドキュメントもこの “`txfonts`” を使っています。通常の \TeX 文書とは英文のフォントが違ふことにお気付きでしょうか。) もし、使用中の \LaTeX システムでエラーが出るようでしたらコメントアウトしてください。

2.3 謝辞

是非、お世話になった先生に謝辞を書きましょう。その際、`\acknowledgement` コマンドを指定すれば、新しいページで大きく「謝辞」と書かれます。

2.4 付録

`\appendix` コマンドを指定すると、そこから後は付録となります。章番号は A, B, ... とアルファベットになります。

3 その他

3.1 記号類

特殊な記号として、証明終りを表す記号 (\square) を `\QED` として定義してあります。

また、横長のダッシュ (---) を `\--` として定義してあります。

3.2 定理環境など

定義を記述する際、定義の内容を `\begin{definition}` と `\end{definition}` とで囲むことで自動的に定義番号が付きます。定理 (`theorem`)、系 (`corollary`)、補助定理 (`lemma`)、命題 (`proposition`)、仮定 (`assumption`) についても同様です。なお、この環境内ではデフォルトの字体がイタリック体になっていますので、都合の悪い人は `\begin{rm}` と `\end{rm}` とで囲むとよいでしょう。

3.3 参考文献の番号

参考文献を参照するのは従来通り `\cite` コマンドを使います。この場合、文献番号は上付き、すなわち ^[1] のようになります。本文中で [1] のように使いたい場合は、`\tcite` コマンドを使って下さい。

また、複数の文献が指定されている場合は、自動的にソーティングして ^{[1]~[3],[5]} などとしてくれます。

3.4 番号付き箇条書

enumerate 環境での番号付き箇条書の第 1 レベルは “1.” がデフォルトですが，

```
\begin{enumerate}[(1)]
```

としておけば，“(1)”，“(2)”，... となり，

```
\begin{enumerate}[(i)]
```

としておけば，“(i)”，“(ii)”，... となります．

なお，この場合，(1) 等は左寄せになりますので，位置を調整したい場合は

```
\begin{enumerate}[\hspace*{1cm}(1)]
```

といった指定をすると良いでしょう．

3.5 脚注

脚注を付ける \footnote コマンドでは，^(注 1) のように脚注マークが付きます．

3.6 図，表

一般に，図を挿入するときは figure 環境を使用し，表を挿入するときは table 環境を使用すると思います．このとき，

```
\begin{figure}[h]
```

としても，希望の位置に図表がないことがよくあります．そういうときは，“h” を大文字にしてみてください：

```
\begin{figure}[H]
```

必ずや期待に応えてくれるはずです．